

1. 本授業科目の基本情報

| | | | |
|-----------|-------------------------|------|-------------|
| 科目名 (コード) | 経営学Ⅱ | | (NGB14L) |
| 講義名 (コード) | 経営学ⅡA | | (NGB14LA) |
| 対象学科 | グローバルビジネス学科 | 配当学年 | 1学年 |
| 対象コース | グローバルビジネスコース | 単位数 | 2 |
| 授業担当者 | 今野 篤 | 時間数 | 30 |
| 成績評価教員 | 今野 篤 | 講義期間 | 秋学期 |
| 実務者教員 | はい | 履修区分 | 必修 |
| 実務者教員特記欄 | 企業コンサルタント、(株)経営教育研究所 代表 | 授業形態 | 講義 |

2. 本授業科目の概要

| | |
|---------------|-------------------------------------|
| 授業の目的 到達目標 | 企業経営の仕組みや取り巻く環境を理解する |
| 全体の内容と概要 | ビジネス視野を広げるためにケーススタディやグループワークの時間を設ける |
| 授業時間外の学修 | 日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく |
| 履修上の注意事項等 | |

3. 本授業科目の評価方法・基準

| | | | |
|--------|-------------------|-------------------------------|---|
| 評価前提条件 | | | |
| 評価基準 | 知識 (期末試験点) 60% | 自己管理能力 (出席点) 30% | 協調性・主体性・表現力 (平常点) 10% |
| 評価方法 | 期末試験の点数 | 出席率×0.3 (小数点以下切り上げ) | 授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点) |
| 成績評価基準 | 評価 | 評価基準 | 評価内容 |
| | S | 90～100点 | 特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。 |
| | A | 80～89点 | 優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。 |
| | B | 70～79点 | 妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。 |
| | C | 60～69点 | 合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。 |
| | D | 59点以下 | 合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。 |
| F | 評価不能 | 試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。 | |

| 4. 本授業科目の授業計画 | | |
|---------------|-----------------------------|--------------------------------|
| 回 | 到達目標 | 授業内容 |
| 1 | 経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）の重要性を理解できる | 企業が成り立ち、成長するために必要な要素を4つに分けて考える |
| 2 | 経営資源（ヒト）を理解できる | 人材にフォーカスを当て、企業活動を見つめてみる |
| 3 | 同上 | ワークショップ |
| 4 | 経営資源（モノ）を理解できる | 設備や商品にフォーカスを当て、企業活動を見つめてみる |
| 5 | 同上 | ワークショップ |
| 6 | 経営資源（カネ）を理解できる | お金の流れにフォーカスを当て、企業活動を見つめてみる |
| 7 | 同上 | 損益計算書を使ってみる |
| 8 | 同上 | ワークショップ |
| 9 | 経営資源（情報）を理解できる | 経営に必要な情報とは。情報を企業の経営に役立てる |
| 10 | 同上 | AIに触れ、生成AIで自分の自己紹介を作ってみる |
| 11 | 同上 | ワークショップ |
| 12 | 学んだことをアウトプットできる | 業種・業界別にヒト・モノ・カネ・情報の違いをまとめる |
| 13 | 学んだことをアウトプットできる | ワークショップ |
| 14 | まとめと解説 | テスト |
| 15 | まとめと解説 | 1年間のフィードバック |

| 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等 | |
|-----------------------|-------|
| 教科書 | サブノート |
| 参考文献・資料等 | なし |
| 備考 | なし |

1. 本授業科目の基本情報

| | | | |
|-----------|--------------|-------------|-----|
| 科目名 (コード) | プロジェクト演習Ⅱ | (NGB14N) | |
| 講義名 (コード) | プロジェクト演習ⅡB | (NGB14NB) | |
| 対象学科 | グローバルビジネス学科 | 配当学年 | 1学年 |
| 対象コース | グローバルビジネスコース | 単位数 | 1 |
| 授業担当者 | 今野 篤 | 時間数 | 30 |
| 成績評価教員 | 今野 篤 | 講義期間 | 秋学期 |
| 実務者教員 | いいえ | 履修区分 | 必修 |
| 実務者教員特記欄 | | 授業形態 | 講義 |

2. 本授業科目の概要

| | |
|---------------|--|
| 授業の目的 到達目標 | 様々なチームビルディングをとおして、チームワークに必要なコミュニケーション能力の向上を目指す |
| 全体の内容と概要 | ①コミュニケーション能力を高めるための学習 ②演劇ワークショップで仲間との協働作業学び |
| 授業時間外の学修 | 異文化への理解を深めておく |
| 履修上の注意事項等 | なし |

3. 本授業科目の評価方法・基準

| | | | |
|--------|-------------------|-------------------------------|---|
| 評価前提条件 | | | |
| 評価基準 | 知識 (期末試験点) 60% | 自己管理能力 (出席点) 30% | 協調性・主体性・表現力 (平常点) 10% |
| 評価方法 | 期末試験の点数 | 出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ) | 授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点) |
| 成績評価基準 | 評価 | 評価基準 | 評価内容 |
| | S | 90~100点 | 特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。 |
| | A | 80~89点 | 優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。 |
| | B | 70~79点 | 妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。 |
| | C | 60~69点 | 合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。 |
| | D | 59点以下 | 合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。 |
| F | 評価不能 | 試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。 | |

| 4. 本授業科目の授業計画 | | |
|---------------|-------------------------|---|
| 回 | 到達目標 | 授業内容 |
| 1 | プロジェクト演習について理解できる | ガイダンス |
| 2 | コミュニケーションとはなにか理解ができる | コミュニケーションとはなにか。日本の以心伝心、コミュニケーションの必要性、問題点を学習する |
| 3 | 同上 | コミュニケーションを分解して、様々なコミュニケーション能力について学習する |
| 4 | 聴く技術について理解ができる | 傾聴とは。傾聴のスキルを高める方法を学習する |
| 5 | 同上 | ロールプレイング |
| 6 | 非言語のコミュニケーションについて理解ができる | 自分の魅力を高める方法を学習する |
| 7 | 同上 | ロールプレイング |
| 8 | 話しについて理解ができる | 声の要素を要素を理解し、話し方について学習する |
| 9 | 同上 | ロールプレイング |
| 10 | 汲み取ることを理解ができる | ハイコンテキストとローコンテキストについて学習する |
| 11 | 演劇ワークショップについて理解ができる | 演劇とは。流れと演出について学習する |
| 12 | 同上 | ワークショップ |
| 13 | 同上 | ワークショップ |
| 14 | まとめと解説 | プレゼンテーション |
| 15 | まとめと解説 | フィードバック |

| 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等 | |
|-----------------------|-------|
| 教科書 | サブノート |
| 参考文献・資料等 | なし |
| 備考 | なし |

1. 本授業科目の基本情報

| | | |
|-----------|--------------------------|-------------|
| 科目名 (コード) | 簿記Ⅱ | (NGB14P) |
| 講義名 (コード) | 簿記ⅡA | (NGB14PA) |
| 対象学科 | グローバルビジネス学科 | 配当学年 1学年 |
| 対象コース | グローバルビジネスコース | 単位数 2 |
| 授業担当者 | 竹内 玲子 | 時間数 30 |
| 成績評価教員 | 竹内 玲子 | 講義期間 秋学期 |
| 実務者教員 | はい | 履修区分 必修 |
| 実務者教員特記欄 | 勤務歴:東京コンピューター(株)、東京精電(株) | 授業形態 講義 |

2. 本授業科目の概要

| | |
|---------------|--|
| 授業の目的 到達目標 | 前期に学習した簿記の基礎知識をふまえて、日商簿記初級受験を目標に企業の取引のしくみ、記帳のしくみを学習します |
| 全体の内容と概要 | テキストに沿って1つ1つの会計処理方法を覚えて、模擬問題を練習し検定対策をします |
| 授業時間外の学修 | 前期の内容のほかに新しい勘定科目や書式、計算問題が出てきます 毎時間しっかり復習して覚えていきましょう |
| 履修上の注意事項等 | 検定試験はいつでも受験が出来ますので受験日を考えて学習してください |

3. 本授業科目の評価方法・基準

| | | | |
|--------|-------------------|-------------------------------|---|
| 評価前提条件 | | | |
| 評価基準 | 知識 (期末試験点) 60% | 自己管理能力 (出席点) 30% | 協調性・主体性・表現力 (平常点) 10% |
| 評価方法 | 期末試験の点数 | 出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ) | 授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点) |
| 成績評価基準 | 評価 | 評価基準 | 評価内容 |
| | S | 90~100点 | 特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。 |
| | A | 80~89点 | 優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。 |
| | B | 70~79点 | 妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。 |
| | C | 60~69点 | 合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。 |
| | D | 59点以下 | 合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。 |
| F | 評価不能 | 試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。 | |

| 4. 本授業科目の授業計画 | | |
|---------------|------------------------------|--|
| 回 | 到達目標 | 授業内容 |
| 1 | 合計残高試算表による 前期内容復習と検定問題の理解 | 合計残高試算表の作成・検定試験の内容説明 |
| 2 | 取引と記帳について理解する | 日々の帳簿記入 商品売買（掛け取引について） |
| 3 | 商品売買の処理について 理解する | 商品売買の処理① 仕入返品・売上返品・引取運賃・発送費・前払金・前受金 |
| 4 | 消費税・税金について理解する | 商品売買の処理② 消費税ほか税金について |
| 5 | 現金預金・手形について 理解する | 手形取引・小切手の扱い、電子記録債権・債務について |
| 6 | 債権と債務のちがいを知り 処理方法を理解する | その他の債権と債務① 貸付金・借入金・未収入金・未払金 |
| 7 | 債権と債務のちがいを知り 処理方法を理解する | その他の債権と債務② 立替金・預り金・仮払金・仮受金 |
| 8 | 固定資産について理解する | 有形固定資産の取得・売却・減価償却 |
| 9 | 純資産（資本）の仕訳を 理解する・収益と費用復習 | 資本金の増加・減少、収益・費用となる勘定科目の確認 |
| 10 | 合計残高試算表問題の解答法を理 解する | 合計残高試算表の作成・問題の解き方 |
| 11 | 検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する | 本試験シミュレーション問題 第1回 |
| 12 | 検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する | 本試験シミュレーション問題 第2回 |
| 13 | 検定問題練習により 本試験の問題の形式を理解する | 本試験シミュレーション問題 第3回 |
| 14 | まとめと解説 | 期末テスト |
| 15 | まとめと解説 | テストFB |

| 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等 | |
|-----------------------|--|
| 教科書 | 土日で合格（うか）る日商簿記初級 |
| 参考文献・資料等 | 他テキスト、問題集よりの抜粋プリント 簿記初級サンプル問題 操作体験版なども使いパソコンで操作する試験に慣れていきます |
| 備考 | |

1. 本授業科目の基本情報

| | | |
|-----------|--------------|-------------|
| 科目名 (コード) | 観光ビジネス論 I | (NGB14R) |
| 講義名 (コード) | 観光ビジネス論 II A | (NGB14RA) |
| 対象学科 | グローバルビジネス学科 | 配当学年 1学年 |
| 対象コース | グローバルビジネスコース | 単位数 2 |
| 授業担当者 | 森腰 淳 | 時間数 30 |
| 成績評価教員 | 森腰 淳 | 講義期間 秋学期 |
| 実務者教員 | いいえ | 履修区分 必修 |
| 実務者教員特記欄 | | 授業形態 講義 |

2. 本授業科目の概要

| | |
|---------------|--|
| 授業の目的 到達目標 | 日本のホテル、旅行会社、交通機関の役割を自分の言葉で説明できる。 外国人観光客が喜ぶ「おもてなし」のサービスや旅行プランを提案できる。 |
| 全体の内容と概要 | 日本の観光業界の基礎知識と「おもてなし」のマナーを中心に学び、後期は観光地のマーケティングや最新のIT技術、持続可能な観光など、より実践的なマネジメントについて学ぶ。 |
| 授業時間外の学修 | ニュースやSNSで、日本の観光地や新しいイベントに関する情報を週に1回はチェックする。 授業で学んだ専門用語を復習し、日常生活の中で見かける観光サービス（駅やホテルなど）を観察する。 |
| 履修上の注意事項等 | 遅刻をせず、毎回出席することが重要。また、授業中のグループワークや発表には積極的に参加する。 わからない言葉があるときは、そのままにせず、すぐに質問して解決するようにする。 |

3. 本授業科目の評価方法・基準

| | | | |
|--------|-------------------|-------------------------------|---|
| 評価前提条件 | | | |
| 評価基準 | 知識 (期末試験点) 60% | 自己管理能力 (出席点) 30% | 協調性・主体性・表現力 (平常点) 10% |
| 評価方法 | 期末試験の点数 | 出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ) | 授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点) |
| 成績評価基準 | 評価 | 評価基準 | 評価内容 |
| | S | 90~100点 | 特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。 |
| | A | 80~89点 | 優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。 |
| | B | 70~79点 | 妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。 |
| | C | 60~69点 | 合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。 |
| | D | 59点以下 | 合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。 |
| F | 評価不能 | 試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。 | |

| 4. 本授業科目の授業計画 | | |
|---------------|-------------------------|--------------------------------|
| 回 | 到達目標 | 授業内容 |
| 1 | 後期の学習の流れと、新しい目標を理解できる | 後期は「観光の運営と未来」をテーマに学ぶことを確認する |
| 2 | 観光客を集めるための基本的な考え方を理解できる | 誰に、何を、どうやって売るかという戦略の基礎を学ぶ |
| 3 | SNSが観光地の人気にどう影響するか説明できる | Instagramや動画サイトを使った情報発信の重要性を学ぶ |
| 4 | その場所だけの「強み」をどう作るか提案できる | 他の観光地と差別化するための「ブランド化」について学ぶ |
| 5 | お客さまに喜んでもらうための工夫を考えられる | アンケートの活用や、クレームへの正しい対応方法を学ぶ |
| 6 | 新しい技術が観光をどう便利にするか説明できる | スマホ予約やAI活用など、観光業界のデジタル化を学ぶ |
| 7 | お祭りやスポーツ大会の集客力を理解できる | イベントを通じて人を集めるビジネスの仕組みを学ぶ |
| 8 | 環境を守りながら観光をする方法を提案できる | 自然を壊さずに観光を楽しむ、持続可能な仕組みを学ぶ |
| 9 | 地域の人と観光客が仲良く暮らす方法を考えられる | 観光客が多すぎる問題（オーバーツーリズム）と解決策を学ぶ |
| 10 | 困ったことが起きた時の立て直し方を理解できる | 災害や病気が流行った時に、観光地がどう対応するかを学ぶ |
| 11 | ワーケーションなどの新しい旅行スタイルを知る | 仕事をしながら旅をするなど、多様化する旅行の形を学ぶ |
| 12 | 観光業界で働く自分の将来像をイメージできる | ホテル、旅行会社など、観光に関わるさまざまな職種を学ぶ |
| 13 | 1年間で学んだ知識をすべて整理できる | 後期の内容を中心に、1年間の学びを総復習する |
| 14 | テスト | テスト |
| 15 | フィードバック | テストフィードバック 個人面談 |

| 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等 | |
|-----------------------|--------------------------------|
| 教科書 | 地図でよく分かる都道府県大百科 必要に応じて適宜コピー等配布 |
| 参考文献・資料等 | 地図でよく分かる都道府県大百科 |
| 備考 | グループ学習が多いので積極的な参加が必要 |

1. 本授業科目の基本情報

| | | |
|-----------|---------------|-------------|
| 科目名 (コード) | 異文化理解Ⅱ | (NKT16L) |
| 講義名 (コード) | 異文化理解ⅡA | (NKT16LA) |
| 対象学科 | 国際コミュニケーション学科 | 配当学年 1学年 |
| 対象コース | 英語キャリアコース | 単位数 2 |
| 授業担当者 | 姚 海玲 | 時間数 30 |
| 成績評価教員 | 姚 海玲 | 講義期間 秋学期 |
| 実務者教員 | いいえ | 履修区分 必修 |
| 実務者教員特記欄 | | 授業形態 講義 |

2. 本授業科目の概要

| | |
|---------------|--|
| 授業の目的 到達目標 | さまざまな国の文化・考え方を学んでお互いに教えあったり認め合うことができるようにする。 |
| 全体の内容と概要 | 各国ごとの冠婚葬祭・ジェスチャー・社会問題などのテーマについて意見交換や発表などをする。そうすることでお互いの文化の違いを教えあい、認め合うことができるようにする。 |
| 授業時間外の学修 | 日頃からいろいろな国の学生たちと交流を持ちましょう。 |
| 履修上の注意事項等 | 発表が多いので事前準備をしっかり行う事が重要です。 |

3. 本授業科目の評価方法・基準

| | | | |
|--------|-------------------|-------------------------------|---|
| 評価前提条件 | | | |
| 評価基準 | 知識 (期末試験点) 60% | 自己管理能力 (出席点) 30% | 協調性・主体性・表現力 (平常点) 10% |
| 評価方法 | 期末試験の点数 | 出席率×0.3 (小数点以下切り上げ) | 授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点) |
| 成績評価基準 | 評価 | 評価基準 | 評価内容 |
| | S | 90～100点 | 特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。 |
| | A | 80～89点 | 優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。 |
| | B | 70～79点 | 妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。 |
| | C | 60～69点 | 合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。 |
| | D | 59点以下 | 合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。 |
| F | 評価不能 | 試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。 | |

| 4. 本授業科目の授業計画 | | |
|---------------|------------------------------------|---|
| 回 | 到達目標 | 授業内容 |
| 1 | 異文化を理解する目的を改めて知る | それぞれの学科の学習目標を提示し、異文化を理解することの必要性、異文化理解できていない場合どんなことがおきるかなども含めて学習する |
| 2 | 異文化摩擦について理解できる | 異文化摩擦の例を示したり、学生間で異文化摩擦の体験などもシェアしながら異文化摩擦とはということについて学習していく。 |
| 3 | 自分をふりかえることで、コミュニケーションがとりやすくなる方法を知る | グループを作りジョハリの窓、学習スタイル、対立管理スタイル、異文化対応力について自分を数値的に理解する |
| 4 | 非言語コミュニケーションやパラ言語について理解し考察する | アイコンタクトの意味と受け取り方、表情が与える誤解、ジェスチャー、パーソナルスペース、時間などについてクラス内で意見を交換する。 |
| 5 | 様々な国での催事を知ることによってその国の文化を理解することができる | 学生を国ごとのグループに分け、その国の催事について発表をするための準備をする |
| 6 | 様々な国での催事を知ることによってその国の文化を理解することができる | 催事についての発表 |
| 7 | 様々な国の生活についてわかるようになる | 様々な国の人々の生活をビデオでみる。(家、街中の様子、仕事、学校の様子、休日の過ごし方など) 各自興味がある国について調べてまとめる。 |
| 8 | 様々な国の生活についてわかるようになる | クラスメートに知ってもらいたい自分の国での生活の様子を調べてまとめる。 |
| 9 | 様々な国の生活についてわかるようになる | 自国の生活について国別に分かれて発表する |
| 10 | 世界の衣食住の歴史について知ることができる | 日本の食文化の歴史の紹介と世界の様々な国の食についてビデオで見て、自分の国と比べてみる |
| 11 | 世界の衣食住の歴史について知ることができる | 自国の衣食住の歴史について調べ、まとめる |
| 12 | 世界の衣食住の歴史について知ることができる | 衣食住発表準備 |
| 13 | まとめと解説 | 期末テスト(衣食住の発表) |
| 14 | まとめと解説 | 期末テスト(衣食住の発表) |
| 15 | まとめと解説 | 今までの授業を通じてのまとめ |

| 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等 | |
|-----------------------|---|
| 教科書 | なし |
| 参考文献・資料等 | グローバルな時代を生きるための異文化理解入門・日本語教師のための異文化理解とコミュニケーション |
| 備考 | |

1. 本授業科目の基本情報

| | | |
|-----------|-----------------|-------------|
| 科目名 (コード) | ビジネスコンピューティングⅡ | (NKT16N) |
| 講義名 (コード) | ビジネスコンピューティングⅡB | (NKT16NB) |
| 対象学科 | グローバルビジネス学科 | 配当学年 1学年 |
| 対象コース | グローバルビジネスコース | 単位数 2 |
| 授業担当者 | | 時間数 30 |
| 成績評価教員 | 宮原 祥子 | 講義期間 秋学期 |
| 実務者教員 | いいえ | 履修区分 必修 |
| 実務者教員特記欄 | | 授業形態 講義 |

2. 本授業科目の概要

| | |
|---------------|---|
| 授業の目的 到達目標 | 表計算ソフトExcelの基本操作・機能を習得し、実務への活用方法を学習する |
| 全体の内容と概要 | テキストに沿って様々な形式の課題を作成し、基本操作を身につける 検定試験を目標に、操作・知識を学習していく |
| 授業時間外の学修 | 操作環境がない生徒がほとんどだと思いますので、メニューの操作方法、文字変換、数式の入力など テキストや授業時配布されたプリントで復習してください |
| 履修上の注意事項等 | 検定試験はいつでも学校で受験できます 就職活動に合わせて、資格を取得する計画を立てましょう |

3. 本授業科目の評価方法・基準

| | | | |
|--------|-------------------|-------------------------------|---|
| 評価前提条件 | | | |
| 評価基準 | 知識 (期末試験点) 60% | 自己管理能力 (出席点) 30% | 協調性・主体性・表現力 (平常点) 10% |
| 評価方法 | 期末試験の点数 | 出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ) | 授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点) |
| 成績評価基準 | 評価 | 評価基準 | 評価内容 |
| | S | 90~100点 | 特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。 |
| | A | 80~89点 | 優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。 |
| | B | 70~79点 | 妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。 |
| | C | 60~69点 | 合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。 |
| | D | 59点以下 | 合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。 |
| F | 評価不能 | 試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。 | |

| 4. 本授業科目の授業計画 | | |
|---------------|--------------------------------|--|
| 回 | 到達目標 | 授業内容 |
| 1 | Excelの基本操作を覚える 合計・平均の計算ができる | Excelの基本（新規作成・基本用語・入力・保存） 数式の入力方法 |
| 2 | 効率の良いデータの入力方法 SUM関数を理解する | データ入力と関数（SUM） |
| 3 | 入力したデータの編集方法を 理解できる | 表作成（書式設定、表示形式、配置、罫線、挿入・削除、上書き保存） |
| 4 | 縦棒グラフが作成できる | グラフ作成（縦棒グラフの作成・編集） |
| 5 | オートフィルの活用 AVERAGE関数を理解する | オートフィル練習（テキストにないもの） 基本的なワークシートの編集（復習とAVERAGE関数） |
| 6 | 表作成に必要な機能を復習する | ワークシートの書式設定（表作成復習） |
| 7 | 縦棒グラフ作成復習 円グラフを作成できる | グラフ作成（縦棒グラフ・円グラフの作成） |
| 8 | グラフ作成の応用機能を 理解する | グラフの設定の変更（系列・種類・軸ラベル・複合グラフ作成） |
| 9 | 実習問題でExcelの活用方法を 理解する | 表作成とグラフ作成 実習問題（縦棒グラフ・円グラフ） 伸び率の計算 |
| 10 | 実習問題でExcelの活用方法を 理解する | 表作成とグラフ作成 実習問題（縦棒グラフ・折れ線グラフ・円グラフ） 売上金額の計算 |
| 11 | 実習問題でExcelの活用方法を 理解する | 表作成とグラフ作成 実習問題 （折れ線グラフ・レーダーチャートグラフ）、SUM関数の応用方法 |
| 12 | 実習問題でExcelの活用方法を 理解する | テスト範囲に合わせた練習問題 1 |
| 13 | 実習問題でExcelの活用方法を 理解する | テスト範囲に合わせた練習問題 2 |
| 14 | まとめと解説 | 期末テスト |
| 15 | まとめと解説 | テストFB |

| 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等 | |
|-----------------------|---|
| 教科書 | 30時間でマスターWord&Excel2021・留学生のためのパソコン入門（貸出） |
| 参考文献・資料等 | 各問題集からの練習問題・プリント |
| 備考 | レベルに応じた資格試験の練習問題 |

1. 本授業科目の基本情報

| | | |
|-----------|--------------|-------------|
| 科目名 (コード) | キャリアデザインⅡ | (NKT16P) |
| 講義名 (コード) | キャリアデザインⅡB | (NKT16PB) |
| 対象学科 | グローバルビジネス学科 | 配当学年 1学年 |
| 対象コース | グローバルビジネスコース | 単位数 2 |
| 授業担当者 | 山口 京子 | 時間数 30 |
| 成績評価教員 | 山口 京子 | 講義期間 秋学期 |
| 実務者教員 | いいえ | 履修区分 必修 |
| 実務者教員特記欄 | | 授業形態 講義 |

2. 本授業科目の概要

| | |
|---------------|--|
| 授業の目的 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会人として必要とされるマナーを習得する。 ・ 面接の流れを理解し、面接に向けての準備を整える。 ・ 志望する企業向けの履歴書を完成させる。 |
| 全体の内容と概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義と演習により、面接へ向けて実践的なマナーやスキル、履歴書の記入方法を習得する。 |
| 授業時間外の学修 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自身の興味のある企業に関するリサーチ (インターンシップ含む) |
| 履修上の注意事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体性をもって、授業に取り組む姿勢 |

3. 本授業科目の評価方法・基準

| | | | |
|--------|-------------------|-------------------------------|---|
| 評価前提条件 | | | |
| 評価基準 | 知識 (期末試験点) 60% | 自己管理能力 (出席点) 30% | 協調性・主体性・表現力 (平常点) 10% |
| 評価方法 | 期末試験の点数 | 出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ) | 授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点) |
| 成績評価基準 | 評価 | 評価基準 | 評価内容 |
| | S | 90~100点 | 特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。 |
| | A | 80~89点 | 優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。 |
| | B | 70~79点 | 妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。 |
| | C | 60~69点 | 合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。 |
| | D | 59点以下 | 合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。 |
| F | 評価不能 | 試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。 | |

4. 本授業科目の授業計画

| 回 | 到達目標 | 授業内容 |
|----|---------------------------------|--|
| 1 | 後期に学ぶことを理解し、主体的に取り組むことができるようになる | 【オリエンテーション】後期に学ぶこと、2回目よりニュースの発表 【演習】後期学びたいことについてグループワーク、マンダラチャートの記入 |
| 2 | 学生時代に力を入れたことが書けるようになる | 【講義】学生時代に力を入れたことについての書き方 【演習】これまでの学生生活で力を入れたことのエピソードを記入 |
| 3 | 内的キャリアと外的キャリアが理解できるようになる | 【講義】自分の内的・外的キャリアを考える方法について 【演習】自分の内的・外的キャリアについて記入 |
| 4 | 未来史が作成できるようになる | 【講義】死ぬまでにしたいこと、3・5・10・20・30年後の設計 【演習】死ぬまでにしたいこと、未来史の記入 |
| 5 | 気になる業界について調査できるようになる | 【講義】業界について、業界の種類、周辺の業界について 【演習】気になる業界や周辺の業界について記入し、発表（2分/人） |
| 6 | 志望する企業を選択し、分析ができるようになる | 【講義】企業を選ぶ6つの視点を知り、志望する企業を選択 【演習】志望する企業について、6つの視点で分析し、記入 |
| 7 | 競合他社について理解することができるようになる | 【講義】志望する企業の競合を知り、調べる 【演習】競合他社について調べ、発表（2分/人） |
| 8 | 志望する企業への志望動機が書けるようになる | 【講義】志望動機の記入のポイント 【演習】志望動機の記入 |
| 9 | 履歴書の書き方を理解し、記入できるようになる | 【講義】記入方法やポイントについて、エントリーシートとは 【演習】志望企業向け履歴書作成、提出 |
| 10 | 履歴書を完成させることができるようになる | 【講義】訂正ポイント説明 【演習】志望企業向け履歴書訂正、提出 |
| 11 | 面接の基本が理解できるようになる | 【講義】面接の基本、マナー 【演習】学生同士で練習/個別面談 |
| 12 | 面接のテクニックを習得できるようになる① | 【講義】実際にあった面接の質問例の紹介 【演習】質問例の回答を記入/個別面談 |
| 13 | 面接のテクニックを習得できるようになる② | 【演習】質問例を活用し、学生同士で面接の練習/個別面談 |
| 14 | 後期試験 | 【試験】選択・記述式(100点) |
| 15 | フィードバック・まとめ | 【後期試験フィードバック】試験のフィードバック、後期のまとめ |

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

| | |
|----------|--|
| 教科書 | 『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク） |
| 参考文献・資料等 | 適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う |
| 備考 | |

1. 本授業科目の基本情報

| | | |
|-----------|-------------------------|-------------|
| 科目名 (コード) | マーケティング基礎Ⅱ | (NKT16R) |
| 講義名 (コード) | マーケティング基礎ⅡA | (NKT16RA) |
| 対象学科 | グローバルビジネス学科 | 担当学年 1学年 |
| 対象コース | グローバルビジネスコース | 単位数 2 |
| 授業担当者 | 今野 篤 | 時間数 30 |
| 成績評価教員 | 今野 篤 | 講義期間 秋学期 |
| 実務者教員 | はい | 履修区分 必修 |
| 実務者教員特記欄 | 企業コンサルタント、(株)経営教育研究所 代表 | 授業形態 講義 |

2. 本授業科目の概要

| | |
|---------------|--|
| 授業の目的 到達目標 | 身近な業界や企業からマーケティングを考え、マーケティングメソッドを使えるようにする |
| 全体の内容と概要 | マーケティング的思考をしっかりと身に付けビジネス視野を広げる。 理解を深めるためにケーススタディやワークショップの時間を設ける |
| 授業時間外の学修 | 日々の企業ニュースに対してアンテナを張っておく |
| 履修上の注意事項等 | なし |

3. 本授業科目の評価方法・基準

| | | | |
|--------|-------------------|-------------------------------|---|
| 評価前提条件 | | | |
| 評価基準 | 知識 (期末試験点) 60% | 自己管理能力 (出席点) 30% | 協調性・主体性・表現力 (平常点) 10% |
| 評価方法 | 期末試験の点数 | 出席率×0.3 (小数点以下切り上げ) | 授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点) |
| 成績評価基準 | 評価 | 評価基準 | 評価内容 |
| | S | 90~100点 | 特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。 |
| | A | 80~89点 | 優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。 |
| | B | 70~79点 | 妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。 |
| | C | 60~69点 | 合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。 |
| | D | 59点以下 | 合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。 |
| F | 評価不能 | 試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。 | |

| 4. 本授業科目の授業計画 | | |
|---------------|---------------------------------|--|
| 回 | 到達目標 | 授業内容 |
| 1 | 後期の授業内容を理解できる | 後期の授業テーマと流れの解説 |
| 2 | マスマーケティングとダイレクトマーケティングの違いを理解できる | マスマーケティングとダイレクトマーケティングとは？ またその違いとは？ |
| 3 | 同上 | ケーススタディ |
| 4 | ターゲティングを理解できる | STPマーケティングの概念を学ぶ |
| 5 | ニーズとウォンツを理解できる | ニーズとウォッチと何か。業界別のニーズとウォッチ |
| 6 | デジタルマーケティングを理解できる | デジタルマーケティングの種類とそのこの効用 |
| 7 | 同上 | 広がるSNSマーケティングの活用方法 |
| 8 | 同上 | インフルエンサー・マーケティングの注意点 |
| 9 | 同上 | ロケーション・インテリジェンス、生体認証など、マーケティングの活方法 |
| 10 | 同上 | マーケティングとプライバシーの保護 |
| 11 | 商品開発を理解できる | マーケティングの4Pとは。商品開発に役立てる。 |
| 12 | 同上 | 業種別のマーケティングの4Pを考察 |
| 13 | 同上 | マーケティングの4Pのケーススタディ |
| 14 | まとめと解説 | テスト |
| 15 | まとめと解説 | 1年間のフィードバック |

| 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等 | |
|-----------------------|-------|
| 教科書 | サブノート |
| 参考文献・資料等 | なし |
| 備考 | なし |

| 1. 本授業科目の基本情報 | | | |
|---------------|-------------------|------|-------------|
| 科目名 (コード) | Webマーケティング基礎Ⅱ | | (NKT16T) |
| 講義名 (コード) | Webマーケティング基礎ⅡB | | (NKT16TB) |
| 対象学科 | グローバルビジネス学科 | 配当学年 | 1学年 |
| 対象コース | グローバルビジネスコース | 単位数 | 2 |
| 授業担当者 | 横内 和加 | 時間数 | 30 |
| 成績評価教員 | 横内 和加 | 講義期間 | 秋学期 |
| 実務者教員 | はい | 履修区分 | 必修 |
| 実務者教員特記欄 | 個人事業 AERU PLUS 代表 | 授業形態 | 講義 |

| 2. 本授業科目の概要 | |
|---------------|--|
| 授業の目的 到達目標 | Webサイトの構造とユーザー心理を理解し、目的を達成するためのHPおよびLPを構築するスキルを習得する。 自身の好きな題材を元にライティングとデザインの両面を考え、成果につなぐWebマーケティングの基礎を体得する。 |
| 全体の内容と概要 | 認知から成約までを繋ぐ「Web上の導線設計」を体系的に学び、 ビジネス現場で即戦力となる一気通貫の設計・制作スキルを習得します。 |
| 授業時間外の学修 | |
| 履修上の注意事項等 | なし |

| 3. 本授業科目の評価方法・基準 | | | |
|------------------|-------------------|-------------------------------|---|
| 評価前提条件 | | | |
| 評価基準 | 知識 (期末試験点) 60% | 自己管理能力 (出席点) 30% | 協調性・主体性・表現力 (平常点) 10% |
| 評価方法 | 期末試験の点数 | 出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ) | 授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点) |
| 成績評価基準 | 評価 | 評価基準 | 評価内容 |
| | S | 90~100点 | 特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。 |
| | A | 80~89点 | 優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。 |
| | B | 70~79点 | 妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。 |
| | C | 60~69点 | 合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。 |
| | D | 59点以下 | 合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。 |
| F | 評価不能 | 試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。 | |

| 4. 本授業科目の授業計画 | | |
|---------------|------------------|-----------------------------------|
| 回 | 到達目標 | 授業内容 |
| 1 | HPとLPの違いを理解する | HPとLPの違いを理解する。優れたLPのリサーチを行う。 |
| 2 | 【LP】 題材選びと構成案 | 商品・サービスを選択し、その魅力を書き出し構成を練る。 |
| 3 | セールスコピーを実装する | ターゲットを想定し、実際に「刺さる言葉」をページに配置していく。 |
| 4 | ファーストビューをデザインする | 最初の1秒で心を掴むビジュアルとキャッチコピーを構築する。 |
| 5 | LP全体のデザインを組み上げる | 構成に基づき、Canva等で1ページのLPを実際に制作する。 |
| 6 | ” | ” |
| 7 | スマホ表示の最適化を行う | 実機での見え方を確認し、ボタンの押しやすさや読みやすさを調整する。 |
| 8 | 【HP編】 サイト全体の構造設計 | 拠点となるHPの役割を考え、複数ページの繋がり（構成）を作る。 |
| 9 | メインビジュアルを制作する | ブランドの世界観を表現し、信頼感を与えるトップページを構築する。 |
| 10 | ” | ” |
| 11 | 各下層ページを実装する | サービス詳細やプロフィールなど、必要な情報をページとして形にする。 |
| 12 | 導線設計とリンクの接続 | 各ページを繋ぎ、ユーザーを迷わせないサイト全体の流れを作る。 |
| 13 | 公開前の最終点検を行う | リンク、誤字脱字、表示崩れなど、プロの視点で細部を仕上げる。 |
| 14 | 発表準備 | 制作したHPの目的や背景、意図などのプレゼン準備をする |
| 15 | 発表 | 各自発表 |

| 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等 | |
|-----------------------|--|
| 教科書 | |
| 参考文献・資料等 | |
| 備考 | |

1. 本授業科目の基本情報

| | | |
|-----------|----------------|-------------|
| 科目名 (コード) | Webマーケティング基礎Ⅱ | (NKT16T) |
| 講義名 (コード) | Webマーケティング基礎ⅡD | (NKT16TD) |
| 対象学科 | グローバルビジネス学科 | 配当学年 1学年 |
| 対象コース | グローバルビジネスコース | 単位数 2 |
| 授業担当者 | 敦賀 由美子 | 時間数 30 |
| 成績評価教員 | 敦賀 由美子 | 講義期間 秋学期 |
| 実務者教員 | いいえ | 履修区分 必修 |
| 実務者教員特記欄 | | 授業形態 講義 |

2. 本授業科目の概要

| | |
|---------------|--|
| 授業の目的 到達目標 | デザインの要素を整理し、わかりやすく相手に伝えるため基本的な手法を理解し、実践する。 |
| 全体の内容と概要 | 普段目にすることの多いDTP、WEB広告やSNS投稿画像などをCANVAを使用して制作し、与えられた課題を完成させる。 |
| 授業時間外の学修 | 課外授業・体育祭・卒業発表に合わせたポスター等の作成 |
| 履修上の注意事項等 | Canvaアカウントログインのため毎回各自のスマホを使用します。課題の提出はTeamsを使用しますのでID・パスワードの管理をお願いします。 |

3. 本授業科目の評価方法・基準

| | | | |
|--------|-------------------|-------------------------------|---|
| 評価前提条件 | | | |
| 評価基準 | 知識 (期末試験点) 60% | 自己管理能力 (出席点) 30% | 協調性・主体性・表現力 (平常点) 10% |
| 評価方法 | 期末試験の点数 | 出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ) | 授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点) |
| 成績評価基準 | 評価 | 評価基準 | 評価内容 |
| | S | 90~100点 | 特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。 |
| | A | 80~89点 | 優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。 |
| | B | 70~79点 | 妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。 |
| | C | 60~69点 | 合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。 |
| | D | 59点以下 | 合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。 |
| F | 評価不能 | 試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。 | |

| 4. 本授業科目の授業計画 | | |
|---------------|-----------------------------|---|
| 回 | 到達目標 | 授業内容 |
| 1 | 基本操作の復習 | SNS投稿画像とキャプション制作 |
| 2 | テキストデザイン・文字組みの基本の習得 | パンフレットの制作 |
| 3 | テキストデザイン・文字組みの基本の習得 | パンフレットの制作 |
| 4 | テキストデザイン・文字組みの基本の習得 | パンフレットの制作 |
| 5 | 効果的なキャプション・ハッシュタグの作成スキル習得 | SNS投稿画像とキャプション作成 |
| 6 | 効果的なキャプション・ハッシュタグの作成スキル習得 | SNS投稿画像とキャプション作成 |
| 7 | 効果的なキャプション・ハッシュタグの作成スキル習得 | SNS投稿画像とキャプション作成 |
| 8 | CANVAの機能を使用したプレゼンテーションの習得 | CANVAのテンプレートから自己紹介ページのプレゼンテーションを作成、発表 |
| 9 | CANVAの機能を使用したプレゼンテーションの習得 | CANVAのテンプレートから自己紹介ページのプレゼンテーションを作成、発表 |
| 10 | CANVAの機能を使用したプレゼンテーションの習得 | CANVAのテンプレートから自己紹介ページのプレゼンテーションを作成、発表 |
| 11 | CANVAの機能を使用したホームページ作成の基本を習得 | CANVAのテンプレートからホームページを作成し、目的に合わせたデザインとSEOを学ぶ |
| 12 | CANVAの機能を使用したホームページ作成の基本を習得 | CANVAのテンプレートからホームページを作成し、目的に合わせたデザインとSEOを学ぶ |
| 13 | 期末テスト | 成果物制作 |
| 14 | 期末テスト | 成果物制作・提出 |
| 15 | フィードバック | テスト内容に関するフィードバック |

| 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等 | |
|-----------------------|---|
| 教科書 | Canva 基本&デザインTIPS！ 無限に役立つ使いこなしワザ152 技術評論社 |
| 参考文献・資料等 | ①世界一やさしいCanva 無料で使えるデザイン作成ツールガイド インプレス ②ちなみにそれ、Canvaでできます！ インプレス |
| 備考 | |

1. 本授業科目の基本情報

| | | |
|-----------|--------------|-------------|
| 科目名 (コード) | 検定対策Ⅱ | (NKT16V) |
| 講義名 (コード) | 検定対策ⅡB | (NKT16VB) |
| 対象学科 | グローバルビジネス学科 | 配当学年 1学年 |
| 対象コース | グローバルビジネスコース | 単位数 2 |
| 授業担当者 | 柄澤 郁子 | 時間数 30 |
| 成績評価教員 | 柄澤 郁子 | 講義期間 秋学期 |
| 実務者教員 | いいえ | 履修区分 必修 |
| 実務者教員特記欄 | | 授業形態 講義 |

2. 本授業科目の概要

| | |
|---------------|-------------------------------------|
| 授業の目的 到達目標 | 前期学習したWordの機能の活用を学習し資格を取得する |
| 全体の内容と概要 | 日商PC検定BASICレベル受験対策を中心に学習していきます |
| 授業時間外の学修 | 資格試験を受験する場合は、模擬問題をくり返し練習してください |
| 履修上の注意事項等 | 資格試験の受験はいつでも可能ですので、受験日を意識して学習してください |

3. 本授業科目の評価方法・基準

| | | | |
|--------|-------------------|-------------------------------|---|
| 評価前提条件 | | | |
| 評価基準 | 知識 (期末試験点) 60% | 自己管理能力 (出席点) 30% | 協調性・主体性・表現力 (平常点) 10% |
| 評価方法 | 期末試験の点数 | 出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ) | 授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点) |
| 成績評価基準 | 評価 | 評価基準 | 評価内容 |
| | S | 90~100点 | 特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。 |
| | A | 80~89点 | 優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。 |
| | B | 70~79点 | 妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。 |
| | C | 60~69点 | 合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。 |
| | D | 59点以下 | 合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。 |
| F | 評価不能 | 試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。 | |

| 4. 本授業科目の授業計画 | | |
|---------------|--|---|
| 回 | 到達目標 | 授業内容 |
| 1 | ビジネス文書の基礎知識を理解 | ビジネス文書とは・社内文書、社外文書の基本とちがい 資格試験概要紹介・自分の受験するレベルを決める |
| 2 | ビジネス文書作成の基本を理解 | 作成する文書の確認・文章の入力・編集・文字の配置、装飾・保存 |
| 3 | 表を活用したビジネス文書が作成できるようになる | 表の作成・レイアウト変更・文字の配置・書式設定 |
| 4 | 図形を活用した文書作成ができるようになる | 図形の作成・図形に文字を入力・スタイル変更 |
| 5 | あいさつ文問題対策 基本となる日本語力をつける | 模擬試験 問題 1 ショールーム開設のご案内・避難訓練実施のお知らせ |
| 6 | 表問題対策 読み取りやすい表の作成を理解 | 模擬試験 問題 2 社内運動会開催のお知らせ・ワイン試飲会開催のご案内 |
| 7 | オブジェクト問題対策 目的に合わせた図形の活用できる | 模擬試験 問題 3 通信教育制度のご案内・新商品キャンペーンについて |
| 8 | 模擬試験問題での検定試験練習 (FOM出版問題集使用) 受験できる学生は随時検定受験 | 模擬 1 配置の設定・文字書式の変更, 設定・定型文の入力 段落番号の設定, 保存・表の配置設定・図形の装飾 |
| 9 | | 模擬 2 文字の装飾・配置の設定・文書の編集・ページ設定・保存 表の作成・段落罫線の作成・図形の装飾・インデント設定 |
| 10 | | 模擬 3 配置の設定・文字書式の変更, 設定・段落番号の設定・保存 インデント設定・表の編集・図形の装飾, 配置, 文字の入力 |
| 11 | | |
| 12 | | |
| 13 | | |
| 14 | まとめと解説 | 期末テスト |
| 15 | まとめと解説 | テスト F B |

| 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等 | |
|-----------------------|--------------------------------------|
| 教科書 | 日商 P C 検定 BASIC 公式テキスト・問題集 文書作成 (貸出) |
| 参考文献・資料等 | 各問題集からの練習問題・プリント |
| 備考 | 資格試験対策として問題集を利用 |

| 1. 本授業科目の基本情報 | | | |
|---------------|------------------|------|-------------|
| 科目名 (コード) | スピーチ&プレゼンテーションⅡ | | (NKT17B) |
| 講義名 (コード) | スピーチ&プレゼンテーションⅡB | | (NKT17BB) |
| 対象学科 | グローバルビジネス学科 | 配当学年 | 1学年 |
| 対象コース | グローバルビジネスコース | 単位数 | 2 |
| 授業担当者 | 竹下 芽衣子 | 時間数 | 30 |
| 成績評価教員 | 竹下 芽衣子 | 講義期間 | 秋学期 |
| 実務者教員 | いいえ | 履修区分 | 必修 |
| 実務者教員特記欄 | | 授業形態 | 講義 |

| 2. 本授業科目の概要 | |
|---------------|---|
| 授業の目的 到達目標 | 人前で自分の意見を発表することができる 見ている人がわかりやすい説明とビジュアルツールを作成し プレゼンテーションを行い、将来の就職の場で役立つ |
| 全体の内容と概要 | 様々なテーマのプレゼンテーションツールを作成し、聞いている人にわかりやすい プレゼンを行えるよう繰り返し行う |
| 授業時間外の学修 | 授業内だけでは練習時間が足りないので家でも準備をするようにしましょう |
| 履修上の注意事項等 | 人前で話すことが苦手な人も慣れるためには積極的に参加することが必要です |

| 3. 本授業科目の評価方法・基準 | | | |
|------------------|-------------------|-------------------------------|---|
| 評価前提条件 | | | |
| 評価基準 | 知識 (期末試験点) 60% | 自己管理能力 (出席点) 30% | 協調性・主体性・表現力 (平常点) 10% |
| 評価方法 | 期末試験の点数 | 出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ) | 授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点) |
| 成績評価基準 | 評価 | 評価基準 | 評価内容 |
| | S | 90~100点 | 特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。 |
| | A | 80~89点 | 優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。 |
| | B | 70~79点 | 妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。 |
| | C | 60~69点 | 合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。 |
| | D | 59点以下 | 合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。 |
| F | 評価不能 | 試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。 | |

| 4. 本授業科目の授業計画 | | |
|---------------|--------------------------------------|---------------------------------------|
| 回 | 到達目標 | 授業内容 |
| 1 | 自己評価ができる | 前期プレゼン発表テストフィードバック |
| 2 | 写真を使ったプレゼンができる | パワポを使って自己紹介をする |
| 3 | マーケティング（プロモーション） 目線でのプレゼンとは何かがわかる | プロモーションの方法とは何か いくつかの動画を見て方法を見比べてみる |
| 4 | マーケティング（プロモーション） 目線でのプレゼンができる | 身近な商品を使ってプロモーションをしてみる |
| 5 | マーケティング（プロモーション） 目線でのプレゼンができる | 顧客を獲得する新商品のプロモーションを考える |
| 6 | マーケティング（プロモーション） 目線でのプレゼンができる | 新商品のプロモーションを発表する |
| 7 | マーケティング（プロモーション） 目線でのプレゼンができる | 新商品のプロモーションを発表する |
| 8 | 建設的な議論ができる | テーマとディスカッション練習 |
| 9 | 建設的な議論ができる | テーマとディスカッション練習 |
| 10 | 適正な自己評価、改善ができる | ディスカッション（フィードバック）&ブラッシュアップ |
| 11 | 即興で話すことができる | 即興プレゼンの練習、スピーチ実技 |
| 12 | 自信をもって話すことができる | 即興プレゼンの練習、スピーチ実技 |
| 13 | その場での柔軟な対応ができる | 質疑応答練習 |
| 14 | 本格的な発表の準備 | 後期テスト用課題と資料作成 |
| 15 | 自信をもって話すことができる | 総合プレゼンと最終発表 |

| 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等 | |
|-----------------------|--|
| 教科書 | |
| 参考文献・資料等 | |
| 備考 | |

1. 本授業科目の基本情報

| | | | |
|-----------|--------------|------|-----------|
| 科目名 (コード) | ビジネス日本語Ⅱ | | (NKT17H) |
| 講義名 (コード) | ビジネス日本語ⅡA | | (NKT17HA) |
| 対象学科 | グローバルビジネス学科 | 配当学年 | 1学年 |
| 対象コース | グローバルビジネスコース | 単位数 | 2 |
| 授業担当者 | 塚川 剛 | 時間数 | 30 |
| 成績評価教員 | 塚川 剛 | 講義期間 | 秋学期 |
| 実務者教員 | いいえ | 履修区分 | 選択 |
| 実務者教員特記欄 | | 授業形態 | 講義 |

2. 本授業科目の概要

| | |
|---------------|--|
| 授業の目的 到達目標 | 後期は、テキスト第5課から第8課（後半の半分）を学ぶ |
| 全体の内容と概要 | テキストの内容（基本表現、BIZマナー）をしっかりと把握し、 学生が将来遭遇する就労場面に応用できるようにする。JLPTのN3合格を支援する。 |
| 授業時間外の学修 | バイト先での経験談、学んだこと、失敗したことなどを発表してもらい、 学生同士で共有し、相互に参考にする。 |
| 履修上の注意事項等 | テキスト以外の就労場面も希望を聞きながら取り入れる。別冊のCDや単語帳も適宜使用する。 JLPT過去問の中でビジネス日本語関係に挑戦する。ビジネスコラム欄を重視する。 |

3. 本授業科目の評価方法・基準

| | | | |
|--------|------------------|-------------------------------|---|
| 評価前提条件 | | | |
| 評価基準 | 知識（期末試験点） 60% | 自己管理能力（出席点） 30% | 協調性・主体性・表現力（平常点） 10% |
| 評価方法 | 期末試験の点数 | 出席率×0.3 (小数点以下切り上げ) | 授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点) |
| 成績評価基準 | 評価 | 評価基準 | 評価内容 |
| | S | 90～100点 | 特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。 |
| | A | 80～89点 | 優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。 |
| | B | 70～79点 | 妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。 |
| | C | 60～69点 | 合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。 |
| | D | 59点以下 | 合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。 |
| F | 評価不能 | 試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。 | |

| 4. 本授業科目の授業計画 | | |
|---------------|---------------|--|
| 回 | 到達目標 | 授業内容 |
| 1 | 夏休みの体験を説明できる。 | 夏休み中のバイト、仕事で前期で学んだことで役に立ったことを紹介できる。学生同士で共有できる。 |
| 2 | 第5課（前半）を理解する | 頼む表現が理解し、適切に使用できる。 |
| 3 | 第5課（後半）を理解する | 断る表現が理解し、適切に使用できる。 |
| 4 | 第6課（前半）を理解する | 許可をもらうことができる。 |
| 5 | 第6課（後半）を理解する | 許可をもらうことができる。 |
| 6 | 第7課（前半）を理解する | アポをとることができる。 |
| 7 | 第7課（後半）を理解する | アポをとることができる。 |
| 8 | 第8課（前半）を理解する | 会社を訪問することができる。 |
| 9 | 第8課（後半）を理解する | 会社を訪問することができる。 |
| 10 | 第5-8課全体を復習する | ハロワを活用できる。募集している内容が理解できる。 |
| 11 | 第5-8課全体を復習する | 面接で正しい応答ができる。合格できる秘訣が理解できる。 |
| 12 | 第5-8課全体を復習する | アルバイト先、就労先で学習した内容を活用できる。 |
| 13 | 第5-8課全体を復習する | 自分の将来の希望や夢を語るすることができる。 |
| 14 | 後期試験の準備をする。 | 後期で学んだ内容の練習問題で合格点が取れる。 |
| 15 | 後期試験を概略できる。 | 理解不足、間違えた個所が理解できる。 |

| 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等 | |
|-----------------------|-----------------------------|
| 教科書 | にほんごで働く！ビジネス日本語30時間 |
| 参考文献・資料等 | 講師作成のPP資料、政府の外国人政策の最新情報の提示。 |
| 備考 | 旅行社、ホテル、旅館、宿泊観光業について紹介する。 |

1. 本授業科目の基本情報

| | | |
|-----------|--|-------------|
| 科目名 (コード) | 日本語コミュニケーションⅡ | (NKT17J) |
| 講義名 (コード) | 日本語コミュニケーションⅡA | (NKT17JA) |
| 対象学科 | グローバルビジネス学科 | 配当学年 1学年 |
| 対象コース | グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース Webマーケティングコース | 単位数 2 |
| 授業担当者 | 榊原 倫代 | 時間数 30 |
| 成績評価教員 | 榊原 倫代 | 講義期間 秋学期 |
| 実務者教員 | いいえ | 履修区分 選択 |
| 実務者教員特記欄 | | 授業形態 講義 |

2. 本授業科目の概要

| | |
|---------------|---|
| 授業の目的 到達目標 | 通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。 |
| 全体の内容と概要 | 前半：読解問題を解くためのポイント、新出語彙を学び、実戦問題を解く。 後半：聴解問題を解くためのスキルを学び、様々な形式の聴解問題を解き、解説を加える。 |
| 授業時間外の学修 | 読解問題の新出語彙の意味調べ・既習事項の復習 |
| 履修上の注意事項等 | 年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。 |

3. 本授業科目の評価方法・基準

| | | | |
|--------|-------------------|-------------------------------|---|
| 評価前提条件 | | | |
| 評価基準 | 知識 (期末試験点) 60% | 自己管理能力 (出席点) 30% | 協調性・主体性・表現力 (平常点) 10% |
| 評価方法 | 期末試験の点数 | 出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ) | 授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点) |
| 成績評価基準 | 評価 | 評価基準 | 評価内容 |
| | S | 90~100点 | 特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。 |
| | A | 80~89点 | 優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。 |
| | B | 70~79点 | 妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。 |
| | C | 60~69点 | 合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。 |
| | D | 59点以下 | 合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。 |
| F | 評価不能 | 試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。 | |

| 4. 本授業科目の授業計画 | | |
|---------------|-----------------------------------|---|
| 回 | 到達目標 | 授業内容 |
| 1 | 文章の仕組みを理解するために 文章の違う点を理解する1 | 読解：【対比】ほかのものとは比べる1 聴解：実際の試験を理解する1課題理解・ポイント理解 |
| 2 | 文章の仕組みを理解するために 文章の違う点を理解する2 | 読解：【対比】ほかのものとは比べる2 聴解：実際の試験を理解する2 概要理解・即時応答 |
| 3 | 文章の仕組みを理解するために 言い換えについて学ぶ1 | 読解：【言い換え】 聴解：実際の試験を理解する3 統合理解 |
| 4 | 文章の仕組みを理解するために 言い換えについて学ぶ2 | 読解：【言い換え】 聴解：音声の特徴に慣れる |
| 5 | 文章の仕組みを理解するために 何を何にたとえているかつかむ1 | 読解：【比喩】 聴解：即時応答のスキルを学ぶ |
| 6 | J L P T形式の問題を解くことができる。 | JLPT模試 JLPT模試 |
| 7 | J L P T形式の問題を解くことができる。 | JLPT模試 F B JLPT模試 F B |
| 8 | 指示語を指している言葉を説明できる。 | 指示語 ドリル&ドリル第一回実践問題 |
| 9 | 下線部に書かれていない主語や対象語を探すことができる。 | 「誰が」「何が」「何を」などを問う 第一回実践問題 |
| 10 | それぞれの動作主を明確にし、文の内容を説明できる。 | 「誰が」「何が」「何を」などを問う 第二回課題理解 |
| 11 | 文の前後を見て、言い換えている言葉を見つけることができる。 | 下線部の意味を問う 第二回課題理解 |
| 12 | 下線部をみて、内容をつかむことができる。 | 下線部の意味を問う 第三回課題理解 |
| 13 | 長文を短い時間で読み解くことができる。 | 期末試験直前対策 期末試験直前対策 |
| 14 | まとめと解説 | 期末試験 |
| 15 | まとめと解説 | 期末試験FB |

| 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等 | |
|-----------------------|-----------------------|
| 教科書 | 完全マスター読解N2 完全マスター聴解N2 |
| 参考文献・資料等 | |
| 備考 | |

1. 本授業科目の基本情報

| | | |
|-----------|--|-------------|
| 科目名 (コード) | 日本語資格対策Ⅱ | (NKT17L) |
| 講義名 (コード) | 日本語資格対策ⅡA | (NKT17LA) |
| 対象学科 | グローバルビジネス学科 | 配当学年 1学年 |
| 対象コース | グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース Webマーケティングコース | 単位数 2 |
| 授業担当者 | 田中 清夫 | 時間数 30 |
| 成績評価教員 | 田中 清夫 | 講義期間 秋学期 |
| 実務者教員 | いいえ | 履修区分 選択 |
| 実務者教員特記欄 | | 授業形態 講義 |

2. 本授業科目の概要

| | |
|---------------|--|
| 授業の目的 到達目標 | 通常のビジネス会話のみならず、相手の心情を理解し適切な言い回しをすることでコミュニケーション力を高めることができる。 |
| 全体の内容と概要 | 日本語能力試験N2の文法と語彙を学んでいく |
| 授業時間外の学修 | 新出語彙の意味調べ・既習事項の復習 |
| 履修上の注意事項等 | 年間を通して必ず1度はJLPTを受験することを必須とする。 未受験者は本授業の単位取得を認めないこととする。 |

3. 本授業科目の評価方法・基準

| | | | |
|--------|-------------------|-------------------------------|---|
| 評価前提条件 | | | |
| 評価基準 | 知識 (期末試験点) 60% | 自己管理能力 (出席点) 30% | 協調性・主体性・表現力 (平常点) 10% |
| 評価方法 | 期末試験の点数 | 出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ) | 授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点) |
| 成績評価基準 | 評価 | 評価基準 | 評価内容 |
| | S | 90~100点 | 特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。 |
| | A | 80~89点 | 優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。 |
| | B | 70~79点 | 妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。 |
| | C | 60~69点 | 合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。 |
| | D | 59点以下 | 合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。 |
| F | 評価不能 | 試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。 | |

| 4. 本授業科目の授業計画 | | |
|---------------|------------------------------|---|
| 回 | 到達目標 | 授業内容 |
| 1 | 自分の困った状況が説明できる 1 | 文法（～きり、どころじゃない、ものの、ことに） 語彙（文脈規定第1回） |
| 2 | 自分の困った状況が説明できる 2 | 文法（～にしては、ことか）、チェック 語彙（文脈規定第12、13回） |
| 3 | 友達の話に共感して励ますことができる1 | 文法（～さえ～ば、ようがない、あげく） 語彙（文脈規定第14、15回） |
| 4 | 友達の話に共感して励ますことができる2 | 文法（～もんじゃない、だけ） チェック、まとめ問題 |
| 5 | 友達の話に共感して励ますことができる3 | 文法（～ばかりに、ことはない、にくらべて） 語彙（言い換え類義第1、2回） |
| 6 | 友達の話に共感して励ますことができる4 | 文法（～ものか、というものよ）、チェック 語彙（言い換え類義第3～6回） |
| 7 | 自分の状況や決意したことを友達に話すことができる1 | 文法（～ばこそ、ないことはない、だけ、もん） 語彙（言い換え類義第7、8回） |
| 8 | 自分の状況や決意したことを友達に話すことができる2 | 文法（～わけにはいかない、のみだ、つもり）チェック、まとめ問題 語彙（言い換え類義第9、10回） |
| 9 | レポートなどの、これまでの経緯や状況の説明が理解できる1 | 文法（～から見ると、一方で、ことから、のみならず） 語彙（用法第1、2回） |
| 10 | レポートなどの、これまでの経緯や状況の説明が理解できる2 | 文法（～といった、にしたがって）、チェック 語彙（用法第3、4回） |
| 11 | レポートや論説文の説明が理解できる1 | 文法（～得る、に反して、に関して、反面） 語彙（用法第5、6回） |
| 12 | レポートや論説文の説明が理解できる2 | 文法（～上、つつある、に限らず）、チェック、まとめ問題 語彙（用法第7、8回） |
| 13 | ビジネス場面で社外の人との簡単な受け答えができる | 文法（お見えになりました、ご～願えます、ご～上げ、ぼ～思います） 語彙（用法第9、10回） |
| 14 | まとめと解説 | 期末試験 |
| 15 | まとめと解説 | 期末試験FB |

| 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等 | |
|-----------------------|---------------------------|
| 教科書 | TRY!日本語能力試験N2 ドリル&ドリル文字語彙 |
| 参考文献・資料等 | |
| 備考 | |

1. 本授業科目の基本情報

| | | |
|-----------|--------------|-------------|
| 科目名 (コード) | ビジネスマナーⅡ | (NKT17N) |
| 講義名 (コード) | ビジネスマナーⅡA | (NKT17NA) |
| 対象学科 | グローバルビジネス学科 | 配当学年 1学年 |
| 対象コース | グローバルビジネスコース | 単位数 2 |
| 授業担当者 | 久保田 ゆかり | 時間数 30 |
| 成績評価教員 | 久保田 ゆかり | 講義期間 秋学期 |
| 実務者教員 | いいえ | 履修区分 選択 |
| 実務者教員特記欄 | | 授業形態 講義 |

2. 本授業科目の概要

| | |
|---------------|---|
| 授業の目的 到達目標 | 社会人としての姿勢と、「働く」うえでの基本的なマナーの取得を目指す。加えて、他者との円滑なコミュニケーションを図れることを目的とする。 |
| 全体の内容と概要 | 社会におけるさまざまな場面に応じたマナーを実例を基に学び、授業のなかで実践する。 |
| 授業時間外の学修 | 学んだことを日常生活のなかで意識して実践し、身に付ける。 |
| 履修上の注意事項等 | 講義による知識の習得と、グループワークや演習を中心に進める |

3. 本授業科目の評価方法・基準

| | | | |
|--------|--|-------------------------------|---|
| 評価前提条件 | 出席率70%以上で期末試験の受験対象者とし、各講義の課題提出及び授業態度・意欲も評価対象とする。 | | |
| 評価基準 | 知識 (期末試験点) 60% | 自己管理能力 (出席点) 30% | 協調性・主体性・表現力 (平常点) 10% |
| 評価方法 | 期末試験の点数 | 出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ) | 授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点) |
| 成績評価基準 | 評価 | 評価基準 | 評価内容 |
| | S | 90~100点 | 特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。 |
| | A | 80~89点 | 優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。 |
| | B | 70~79点 | 妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。 |
| | C | 60~69点 | 合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。 |
| | D | 59点以下 | 合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。 |
| F | 評価不能 | 試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。 | |

| 4. 本授業科目の授業計画 | | |
|---------------|---------------------------------|---|
| 回 | 到達目標 | 授業内容 |
| 1 | オリエンテーション 学習意図が理解できる | 講義・本授業の意図と前期授業の再確認 演習・クイズ グループワーク 復習 |
| 2 | 社外のマナー① 会社外のルールが理解できる | 講義・社会の人脈形成 名刺の意味 雑談の重要性 演習・クイズ グループワーク 発表 |
| 3 | 社外のマナー② 会社外のルールが理解できる | 講義・さまざまなシーンにおける席次 案内と見送り 演習・クイズ グループワーク ケーススタディ |
| 4 | 社外のマナー③ 会社外のルールが理解できる | 講義・面談時におけるお茶の出し方と飲み方 訪問時のマナー 演習・クイズ グループワーク 発表 |
| 5 | 社外のマナー④ 会社外のルールが理解できる | 講義・営業活動の基本 派遣と出向の考え方 演習・クイズ グループワーク ケーススタディ |
| 6 | ビジネススキル① ビジネススキルの基本が理解できる | 講義・敬語の使い方 話す言葉と書く言葉の違い 演習・クイズ グループワーク 発表 |
| 7 | ビジネススキル② ビジネススキルの基本が理解できる | 講義・漢字の使い方 ビジネスメールの形式 演習・クイズ グループワーク ケーススタディ |
| 8 | ビジネススキル③ ビジネススキルの基本が理解できる | 講義・ビジネス文書の形式 はがきと封筒の使い方と書き方 演習・クイズ グループワーク ケーススタディ |
| 9 | ビジネススキル④ ビジネススキルの基本が理解できる | 講義・電話の受けるとき かけるときの注意点 演習・クイズ グループワーク ケーススタディ |
| 10 | 日常生活のマナー① 日常生活のマナーが理解できる | 講義・日常生活を送る際の注意点①（自身の現生活の振り返り） 演習・クイズ グループワーク ケーススタディ |
| 11 | 日常生活のマナー② 日常生活のマナーが理解できる | 講義・日常生活を送る際の注意点②（自身の現生活の振り返り） 演習・クイズ グループワーク ケーススタディ |
| 12 | 日常生活のマナー③ 日常生活のマナーが理解できる | 講義・表情と言葉の印象 演習・クイズ グループワーク ケーススタディ |
| 13 | ビジネスマナー振り返り 社会人としての心構えが理解できる | 講義・ビジネスマナーとは（再度） 演習・クイズ グループワーク ケーススタディ |
| 14 | 後期末試験 | 後期授業の確認テスト |
| 15 | フィードバック 前後期授業のまとめ | 授業内容全般のまとめ |

| 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等 | |
|-----------------------|---|
| 教科書 | 『改訂版 留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール』 (日本能率協会マネジメントセンター発行) |
| 参考文献・資料等 | なし |
| 備考 | 必要に応じて資料を用意する |